

理学部アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。これにより、目標とする質的水準の達成度を把握するとともに、カリキュラム、個々の授業方法、学習環境および学習支援の充実・改善をはかる。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、理学部のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。ディプロマ・ポリシーにおいては、1)広い教養・基礎学力と汎用的能力、2)科学の体系的基礎学識・技術・科学的思考力、および3)協働する姿勢・能力を身につけることを期待している。卒業研究においては、自身の研究の意義・位置づけを十分に理解し、主体的、積極的にとりくむこと、および科学的な知見に基づく建設的な議論を行えるようになることを目標としている。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	卒業予定者アンケート	毎年1-3月	4年生	在学中の状況、愛大学生コンピテンシーの習得状況、およびDP（教育目標）の達成状況（自己評価）	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、各学部のカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
2	授業アンケート（理学部）	毎年4回（各クォーター）	全学年	学習の状況、授業の満足度、および到達目標の達成度（自己評価）	Webアンケート	理学部教育コーディネイター会議	各教員に報告し、教員レベルでの授業方法の改善に活用。また、インセンティブ付与に活用することで、全体的な授業改善効果を期待。 ※ただし、アンケートの質問項目、実施法を含め、活用法については今後検討する。
3	成績不振学生および休退学者の調査	毎年2回	全学年	学業不振および休退学の状況（GPA、修得単位数、休学者数、退学者数）	修学支援システム	教育・学生支援機構／各学部	学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用
4	学生モニター会議	毎年2回	全学年（学生代表者）	授業・カリキュラム、学習環境および学内施設に関する意見、満足度	インタビュー調査	理学部学生支援委員会	授業方法やカリキュラム改善、学習支援や学習環境の充実・改善、自己点検・評価に活用
5	卒業者の進路状況	毎年1回	4年生	卒業者の進路（就職率、県内就職率、進学率）、就職支援への評価	修学支援システム	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援会議に報告し、就職支援の充実、自己点検・評価、情報公開に活用
6	共通課題科目（卒業研究）の成績	毎年1回	4年生	卒業研究に該当する共通課題科目、「特別研究Ⅰ，Ⅱ」「特別演習Ⅰ，Ⅱ」の成績分布	修学支援システム	理学部教育コーディネイター会議	これらの成績を用いてDP達成度の把握に活用。学習支援の改善、カリキュラム改善、自己点検・評価に活用